

ゼミナール紹介

担当者名	飯野 守
e-mail アドレス	iiiinox@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3306
在室曜日・時限	火曜日 1、2 限、および、木曜日の昼休み、3 限 ※面談を希望する人は希望時間帯をメールでお知らせください。
個別説明会 (日時・場所)	予定していません。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	12 月 19 日 (水)、1 月 9 日 (水) のいずれも 2 限
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	情報社会と法、現代社会と著作権、知的財産法、日本国憲法
2018 年度担当科目	情報社会と法ほか
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>本ゼミナールでは、メディア/コミュニケーションと法に関わる課題を扱います。とはいうものの、入り口は何でも構いません。例えば、ネットメディア、コミケ、動画投稿サイト、あるいは、リーチサイトなどです。各自が関心を持ったことを素材として、法的な課題としてどう捉えるか、解決の方向をどう考えるかを学びましょう。</p> <p>春学期は基礎知識を確認するための基本的文献の購読、並びに、個人の研究の準備を行います。秋学期は主として各自が決めた研究テーマについて報告をしてもらい、皆で討論をしながらテーマを深めていくこととします。</p> <p>メディア/コミュニケーションと法に関わる様々な課題について、その問題の所在や解決すべき課題を発見でき、どのような解決方法が適切であるかを自分で判断することができ、さらに、これらのことについての的確に発表あるいは表現することができる力を身につけることを全体の目標とします。ニュースで報道されるようなトラブル事例や、身の回りにある素材について法的な視点から分析して解明する力を身につけることは将来必ず役に立つはずで</p>

ゼミナール紹介

担当者名	石野 正彦
e-mail アドレス	ishino@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	6219 研究室 (6号館2階)
在室曜日・時限	毎週月曜日(振替日12/22含む)昼休み, 4, 5限, 火曜日1, 2限, 昼休み, 5限, 水曜日1~5限, 昼休み 場所:6219 研究室 ※不在もあるので希望日時を事前にメールすると確実に説明を受けられる。
個別説明会 (日時・場所)	毎週月曜日(振替日12/22含む)昼休み, 4, 5限, 火曜日1, 2限, 昼休み, 5限, 水曜日1~5限, 昼休み 場所:6219 研究室 ※不在もあるので希望日時を事前にメールすると確実に説明を受けられる。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	12月19日(水), 1月9日(水), 16日(水), 23日(水), 30日(水)の1, 2限のゼミの時間帯に自由に見学できる。ゼミ生全員が研究成果をポスター発表, 場所:6227 教室(6号館2階)
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	情報サービス産業の理解、ソフトウェアの品質、ビジネス情報処理演習、ビジネスモデル論 ※未来の情報社会に関心があってスマホのアプリが使えるれば、ITの専門知識やプログラミング技術の必要性は全くない。
2018年度担当科目	情報サービス産業の理解、ソフトウェアの品質、キャリア研究C、ビジネス情報処理演習、 ビジネスモデル論、ソフトウェアの構成とテスト、総合演習A・B、経営システム特論
授業概要	<p>ゼミナールAは情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、本ゼミナールは下記から自由にテーマを選択し、学生自身が関心のある分野を研究する。また、各人のゼミナールの成果は授業や合宿などで発表し、IT実務経験者からの講評を得る。</p> <p>1. ゼミナールの到達目標とコンセプト</p> <p>①デジタル社会の進化に向けた最新技術を体験し、実学応用能力の獲得を到達目標とする。 ②デジタル社会の未来予想と夢を探求する。(注1)実学能力とは社会に出て有効な応用力、発想力、閃き ③IoTやAI活用のビジネスモデルを創成する。(注2)ビジネスモデルとは備かるアイデア、しくみづくり ※IoT=Internet of Things, AI=Artificial Intelligence・人工知能</p> <p>2. ゼミナールの主なテーマと活動概要 ⇒下記の候補テーマから選択する。</p> <p>①情報社会で進化するスマホアプリ、ウェアラブルセンサー、スマートスピーカー、IoT, AI, ロボット, AR・VR・MR・CG, 3Dプリンタ, ドローン等を活用した事例研究, 体験, 制作する。 ②IoT, AI, 会話型ロボット, シェアリングエコノミーの活用で新規ビジネスモデルの創造。 ③生活やスポーツ科学でのICT活用~IoT, AI, クラウド, アプリ, ウェアラブルの応用提案。 ④ビッグデータの分析でWebマーケティング、社会行動、商品トレンドなどの分析と予測。 ⑤SNS, プラットフォーム活用のビジネスモデルの企画。(例)YouTube, Facebook, LINE, Instagram等の活用</p> <p>3. ゼミナールの授業日、ツールと成績評価</p> <p>①毎週水曜日2限に指定したPC教室で実施する。テーマに必要な教材やツールを準備する。 ②研究成果と学習態度が優れているか、学期当初計画の目標達成度により成績を評価する。</p> <p>4. 将来のビジネスへの展開とキャリア研究</p> <p>①各成果のビジネスモデル展開, 事例研究, キャリア研究, スペシャリスト, 企画力の研磨。 ②論文作成, プレゼンテーション, リーダシップ能力と資格取得, 潜在能力のブレーク法。 本ゼミナールは将来の情報社会の生活で不可欠な情報技術を駆使してアイデアを創造する。様々な体験で先進情報社会へ飛躍できる実学の養成とIT活用で情報社会をデザインする!</p> <p>《メッセージ》IT応用ビジネス体験から、情報社会のニーズにマッチしたITメディア構想や就活にも役立て、ゼミ仲間と一緒に考え、実体験を通じて目標成果の達成や作品を制作します。IoTやAIの多種のスマホアプリを巧みに活用して「イノベーション的な発想」を創造しよう!</p>

ゼミナール紹介

担当者名	大橋 洸太郎
e-mail アドレス	kohashi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	5号館4階 5406室
在室曜日・時限	火曜日 3・4限
個別説明会 (日時・場所)	特段開催はしませんが、ゼミの見学は自由です。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	水曜日 2時限目
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	データ分析に関する科目
2018年度担当科目	データ分析総合演習 統計学入門 調査集計法 A 調査集計法 B 情報社会における計量社会学
授業概要	<p>ゼミナールAは情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>本ゼミナールではデータ分析を行うことを主眼に置いています。データをまとめ、その内容の重要なポイントを読み取り、分かりやすく相手に伝える、そのような力が得られるようにしたいと思います。</p> <p>本ゼミナールでは、以下の2つの目的を持っています。</p> <ul style="list-style-type: none">①データサイエンス分野の分析手法の習得②分析に基づいた商品開発の体験 <p>春学期には、データ分析に広く応用がなされるようになってきたプログラミング言語の使い方や、データハンドリングの手法を身に着けることを最初に行います。その後、習得したプログラミング能力を活かしたデータ分析手法を学び、グループや個人での分析や発表を通じて、エビデンスに基づいたコミュニケーションを行うスキルを磨きます。現在のところ、プログラミング言語としては「R」や「Python」を想定しています。</p> <p>秋学期には、調査を通じて収集したデータを基に商品開発を行うプロセスの一例を学びます。まず商品コンセプトのポジショニングを行い、ニッチな視点を見出し、新たなコンセプトを設計します。次にそれらのコンセプトに相応しい商品名を選定し、コンセプトに含まれる要因の効果の大きさを測定します。グループによる商品開発を通じて、チームとして成果を作り上げるための協調性を磨きます。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	佐久間勲
e-mail アドレス	isao@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3313 研究室
在室曜日・時限	原則として、火曜日 2 限・昼休み、水曜日昼休み、金曜昼休み・3 限に対応可能です。ただし会議やその他の業務の都合で不在の場合も多いです。予定はわかり次第 web サイト (http://open.shonan.bunkyo.ac.jp/~isao/) の「2019 年度ゼミナール紹介」にも掲載しますが、事前にメールでアポイントメントを取ることをお勧めします。
個別説明会 (日時・場所)	決まり次第、web サイトの「2019 年度ゼミナール紹介」に掲載します。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	今回は行いません。
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	<ul style="list-style-type: none"> ・社会心理学概論 (社会心理学) を履修していることが望ましいです。 ・情報収集技法、調査集計法 A・B、マーケティング・リサーチなどをはじめとしたデータ収集と分析系の授業を履修していることも望ましいです。
2018 年度担当科目	社会心理学概論、ロジカルシンキング、説得コミュニケーション論など
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>本ゼミナールは、社会心理学研究 (実験、調査、内容分析、二次データの分析を実施し、そこで得られたデータに基づいて主張をするタイプの研究) を実施できる能力を育成することを大きな目標とします。社会心理学のうち特定の研究テーマを取り上げることはありませんが、例としては、「スマホ依存がコミュニケーション能力に及ぼす影響」「情報雑誌の内容分析」「SNS 利用が対人関係に及ぼす影響」「送手手の専門性が説得の効果に及ぼす影響」「姿勢やしぐさが印象に及ぼす影響」「ステレオタイプが対人認知に及ぼす影響」などがテーマとして挙げられます (もちろんこれらに限定しません)。</p> <p>本ゼミナール内での具体的な活動は以下の 2 つの課題になります。</p> <p><u>(1) グループ研究</u> : グループである特定のテーマで実証的研究を行い、その成果をレポートにまとめて、プレゼンテーションをします。本年度は自分たちで質問項目を作成して「地域」「家電メーカー」「アパレルショップ」に対する態度とイメージを測定するという実習を実施しました。</p> <p><u>(2) 文献の収集と発表</u> : 各自の関心に基づきテーマをひとつ決めて文献を収集し、それらをまとめたものをゼミナールで発表してもらいました。本年度のテーマ例としては「ネット依存の予防と治療」「流行とその原因」「うわさと集合行動」「ネット上の情報の信頼度」などです。発表を通して、社会心理学の研究内容はもちろんのこと、研究方法、研究論文の書き方についても理解を深め、4 年次の卒業研究に結びつけます。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	関 哲朗
e-mail アドレス	seki@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3415
在室曜日・時限	火・水・木
個別説明会 (日時・場所)	決まり次第メールで連絡します。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	水曜日・2限
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	情報社会学科の専門科目など
2018 年度担当科目	プロジェクトマネジメント、成功のプランニング、人間愛と情報社会、情報技術史
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、本ゼミナールでは情報社会に関わる諸問題をテーマに学習を進め、卒業論文としてまとめていきます。</p> <p>情報社会の諸活動は、情報技術（IT）によって支えられています。</p> <p>情報社会になることで発生した問題・課題、情報社会になることで解決できるようになった問題・課題について、考え、提案していきます。</p> <p>一番基本的な問題は、情報社会を支える情報システムやソフトウェアを「どのように作るか」という問題です。「どのように作るか」という課題の中には、納期やコストを守るにはどうしたら良いのだろうかということもあるし、作るための働く人たちが楽しく、意欲的に働くにはどうしたら良いのだろうかというような意味が含まれています。</p> <p>そこで、プロジェクトマネジメントや顧客などとの関わりを考えるステークホルダマネジメント、モチベーション（やる気）形成の方法などがテーマになります。</p> <p>一方で、情報社会になることで新しく生まれたもの、失われたものがあります。例えば、インターネットの普及は新しい交流の仕方（SNS など）を生み出す一方で、これを使った犯罪も発生しています。また、デジタル書籍やドラマやアニメのオンデマンド配信が普及する一方で、紙文化の衰退が確認されています。</p> <p>そこで、インターネット上での新たなビジネスの創生や仮想通貨を活用したマーケットの創成、アニメやファッション雑誌、また、TV やラジオなど、これまでの様々な文化の価値の確認と新たな在り方の考察などがテーマになります。</p> <p>ゼミや卒業論文のテーマは、教員の理解、指導できる範囲であれば、これらに限らず学生の提案を受け入れます。</p> <p>将来の進路に関して考えることは大切なことです。学会への参加や企業の方と面談など、様々な機会を活用して、企業就職や大学院進学といった進路選択について考える機会を設けていきたいと思っておりますので、積極的に参加して欲しいと思います。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	西川 和
e-mail アドレス	nishikaw@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3302
在室曜日・時限	月(昼休み)、火(3時限)、水(会議がない昼休み) 他も連絡をいただければ調整可能
個別説明会 (日時・場所)	個別に対応するので、メール等で連絡をいただきたい。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	ゼミの開催場所は研究室で、見学はいつでも可能である。事前に連絡をいただくと対応しやすい。
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	特定の科目との関連はない。
2018 年度担当科目	総合演習 B、総合演習 C、ソフトウェア開発計画、データベース入門、データモデリング
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>本ゼミナール担当者の研究範囲は図書館情報学、書誌学、デジタル人文学である。なお、図書館情報学の範囲は図書館のサービスや資料に限らず、検索システム、情報行動と幅広い。書誌学は西洋の印刷を中心に、写本や和漢籍に関しても興味がある。デジタル人文学は書誌学研究と組み合わせた新しい研究手法がないかを考えている。研究範囲内のテーマはもちろん、それ以外の研究テーマについても学生の熱意には応える。</p> <p>ゼミでは 3 年の春学期では各自が興味を持った文献を読んでまとめ、それをもとに議論することを通じて最新の研究を把握する。秋学期は卒業論文に向けて、春よりも明確な方向性をもって論文を探し、内容をまとめたうえで議論をしていくことになる。4 年ではそれまでに得た知識をもとに卒業論文執筆に向けた調査を進めていく。合宿などの研究外の交流については所属学生の要望に応える予定である。</p> <p>もちろん論文を探し、読むことは授業時間外に各自で取り組んでもらう。個人で文献と向き合う時間を多くとるため、地道に努力をする学生や文章の読み書きを好む学生には向いている。しかし、共同研究などを求める学生には向いていない。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	松本修一
e-mail アドレス	shuichi@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	1115 研究室
在室曜日・時限	月曜4限、火曜、木曜
個別説明会 (日時・場所)	12月17日(月)、12月20日(木)、1月10日(木)、1月21日(月) お昼休み・1115 研究室
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	随時、連絡を頂けると対応します。
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	情報社会における都市計画
2018 年度担当科目	
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、本ゼミナールでは、交通関係の専門書および研究論文を交替で読む輪講および各自が教員とともに相談しテーマを決めて行う研究の2つを並行して行うことを予定している。このような専門的な研究経験を通じ、今後社会に出る際必要とされる、論理的思考能力、プレゼンテーション力など様々な素養を身に付けることが出来る。また、SPI 対策、エントリーシート作成指導、インターンシップ先の紹介など就職対策も実績があります。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	吉田 知加
e-mail アドレス	cyoshida@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3312
在室曜日・時限	1月授業開始以降の月曜日 11:00～13:00 場所 3312 研究室
個別説明会 (日時・場所)	1月16日(水) 12:40～13:00 場所 6226 教室予定
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	1月16日(水) 2時限 場所 6226 教室
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	
2018年度担当科目	「システム分析」「システム設計」「企業活動と情報システム」
授業概要	<p>ゼミナールAは情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p style="text-align: center;">【ゼミナールA】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各自が希望する特定分野（業種・業態、技術等）について、教員とテーマを決め、文献を調査により研究領域を限定していくことを学ぶ。 ● 「ICT が実際どのような現場の問題をどのように解決していけるか」を知る機会としてIT企業訪問を含むゼミ合宿を実施する。 ● チーム形成を目的として、学祭イベントに参加する <p style="text-align: center;">【ゼミナールB】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ゼミナールAでの各自のテーマについての文献調査を深める。 ● データ収集のための調査、および分析の方法を学ぶ。 ● アンケート調査の実施・およびそのデータ分析を実施する。 ● 研究論文作成のプロセスを個人プロジェクトとして遂行し、論文作成演習として学会への投稿と発表を目指す。 <p>ゼミナールを通じて、以下の実践的スキルを修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 文献調査 ② 調査目標の設定と具体的実施内容の設計 ③ 調査（インタビュー・アンケート等）による課題・ニーズのデータ収集 ④ “R”スキルの知識取得とデータ分析での実践 ⑤ 分析結果から結論への導き方 ⑥ ソリューションの提案（任意） ⑦ 学会論文の執筆（有志）

2019年度 ゼミナール紹介 原稿用紙

担当者名	石井健一
e-mail アドレス	未定
研究室	未定
在室曜日・時限	未定
個別説明会 (日時・場所)	
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	調査集計法 A、調査集計法 B、社会調査法演習 1、社会調査法演習 2、統計学入門、情報社会における計量社会学入門、社会心理学、現代社会の消費者行動、マーケティング・リサーチ
2018 年度担当科目	
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>本ゼミナールは消費行動や情報行動の行動科学的な分析を研究対象としてとりあげます。私の研究領域との関係から、以下のようなテーマを考えています。ブランドのイメージ、くちコミの影響、新製品や新技術の利用、コンテンツの利用と満足、海外における日本コンテンツの受容、広告の内容分析。最初は、学生の問題関心に関連する文献を輪読して報告してもらいます。また、後半ではグループで小規模なフィールド調査(アンケート調査、インタビュー調査、テキスト・マイニング、内容分析など)を行うことも考えていますが、具体的に何をするかは参加学生の関心状況をみて判断したいです。</p>

2019年度 ゼミナール紹介 原稿用紙

担当者名	西尾好司
e-mail アドレス	
研究室	
在室曜日・時限	
個別説明会 (日時・場所)	
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	
選抜方法	
ゼミナールに 関連する科目	
2018年度担当科目	
授業概要	<p>ゼミナールAは情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>担当教員は、企業のイノベーション活動、社会課題解決や社会イノベーションにおける企業・市民・行政・NPO等の役割、イノベーション政策等の研究を行っています。</p> <p><目的と主な活動></p> <p>本ゼミナールは、秋学期終了時に卒業研究のテーマや研究の方針を確定することを目的として、以下の2つの活動を中心に進めます。</p> <p>① 経営やイノベーションに関する書籍や文献について全体での輪読 ② 各自が設定したテーマでの文献・事例調査、発表及び議論</p> <p><ゼミの進め方></p> <p>春学期では、企業活動の理解を深めるために、経営学の書籍やイノベーション、ビジネスモデルなどの事例の文献の輪読し(上記①)、組織や人、事象など各自の関心を具体化していきます。秋学期では、各自の関心から卒業研究のテーマを設定するための準備段階として、下記の研究分野の例を参考に、個別テーマで文献や事例調査を行います(上記②)。その他に研究の進め方の講義や企業関係者との対話も行います。</p> <p><研究分野の例></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業のイノベーション活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンイノベーション、市民や個人ユーザーとの共創、SDGs 戦略 ・ ICTを活用するビジネスモデル、ICTユーザー企業のICT活用力 2. 市民参加型のイノベーション、社会イノベーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業と市民の共創による社会課題の解決、コミュニティ開発 ・ 社会イノベーションにおけるICTの役割、ICTを活用した共創 3. イノベーション政策 <ul style="list-style-type: none"> ・ イノベーション・システム(国レベルや地域レベル)、産学官連携 ・ 情報化社会における大学の役割(教育、研究、社会との関係)

ゼミナール紹介

担当者名	井徳正吾
e-mail アドレス	itoku@shonan.bunkyo.ac.jp
研究室	3410 研究室
在室曜日・時限	木曜の3限
個別説明会 (日時・場所)	特に考えていません。少しでも興味のある人は事前にメールして研究室まで来てください。気軽にどうぞ。3年生が対応してくれます。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	マーケティング・コミュニケーション論、コミュニケーション戦略論、社会調査、統計学
2018 年度担当科目	コミュニケーション戦略論、マーケティング・コミュニケーション論、コミュニケーション・デザイン論、広告論、クロス・メディア・コミュニケーション論
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、本ゼミナールはマーケティング・コミュニケーションを学ぶ領域とし、マーケティング視点からの広告企画や広報・PR 企画、販売促進、また商品企画などを行う。具体的には、神奈川産学チャレンジプログラムに参画し、企業から提示された課題をマーケティング・コミュニケーションを用いて解決する術を学ぶ。マーケティング・リサーチ、企画書の書き方、プレゼンテーションの仕方も同時に学びます。実務に役立つ学習がモットーです。</p> <p>みんなでワイワイ言いながら作業するのが好きな方、友達と刺激しあうのが好きな方、プレゼンテーションが得意な方、自分なりの意見を持ち発信するのが好きな方、自分を頑張り屋だと評価する人に適します。</p> <p>産学チャレンジプログラムで神奈川県ナンバー1の座を来期も死守するために頑張れる人は是非来てください。「楽しんで単位がもらえればいい」と考える学生や、バイト中心の学生には適しません。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	村井 睦
e-mail アドレス	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ を確認 (要ログイン)
研究室	3409
在室曜日・時限	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ の office hour を確認
個別説明会 (日時・場所)	<ul style="list-style-type: none"> ・個別説明会はおこないません。 ゼミの説明を希望する皆さんへは個別面談をおこないます。 *メールにてアポを取って下さい。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	1月9日を予定、詳細はメールでお問い合わせください。
選抜方法	別紙の通り
ゼミナールに 関連する科目	特になし
2018 年度担当科目	基礎演習 A、基礎演習 B、プレゼミ C、インタラクティブメディア概論、コミュニケーションデザイン演習、クリエイティブ演習
授業概要	<p>ゼミナール A は情報社会学科の各教員が専門とする領域をテーマとして、演習形式の授業を通して、その領域についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>本ゼミナールでは、新しい技術を積極的に取り入れ、旧来からの表現の枠にとらわれない新しい視覚伝達の領域を模索していく。映像・紙・Web などのメディアを横断的に学ぶ事により総合的な表現力や情報発信力を習得する事を目的とする。またグループワークを多く取り入れてコミュニケーション能力を高める事も重要な学習目的となる。</p> <p>*詳細は下記を参照してください。</p> <p>https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/</p>